

## 令和5年度

### 第1回「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」干潟観察会の概要

- 日時 令和5年6月4日(日) 11:00~16:00
- 場所 阪南2区人工干潟(岸和田市)
- 主催 CIFER・コア、共和海建グループ、きしわだ自然資料館
- 参加者数 83名 (CIFER・コア 17名 (うち子供1名)、共和海建グループ 19名、  
きしわだ自然資料館 47名 (うち子供16名))
- 行程 11:00 昼食(BBQほか)
- 12:00 集合
- 12:20 出航 (交通船3隻に分かれて乗船)
- 12:40 阪南2区棧橋に着岸
- 12:50 干潟造成の経緯説明・注意事項
- きしわだ自然資料館の柏尾 翔氏より講師の紹介
- ・平田慎一郎氏 (きしわだ自然資料館学芸員)
  - ・児嶋 格氏 (きしわだ自然資料館専門員)
  - ・大古場正氏 (大阪湾海岸生物研究会)
  - ・山田浩二氏 (貝塚市立自然遊学館)
  - ・河添純子氏 (大阪湾海岸生物研究会)
- 13:00 干潟観察
- 護岸清掃 (共和海建グループ)
- 14:30 帰港
- 15:00 採取生物の同定と講師による説明 (鯿巾着セリ場)
- 16:00 終了 (堺泉北埠頭(株)からノート・ペンの配布)



#### ○活動内容

台風2号による2日前の豪雨が嘘のような快晴に恵まれ、穏やかな天候のもと、令和5年度 第1回目の「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」が開催されました。通算5回目となる干潟観察会は参加者の人気が高まっており、きしわだ自然資料館が募集した40名の定員に対し79名の応募がありました。募集人数は昨年の2倍となり、子供たちも17人と多く、干潟では危険防止のため水際に人が立ち、暑さを防ぐためのテントを張るなどの配慮がなされました。

干潟観察会では、潮位が最低であったこともあり、マテガイやカニ、および様々な生き物が例年よりも多く採取されました。また、CIFER・コアでは、令和3年~4年にNOP法人大阪海さくらと共に干潟へのアマモ苗移植活動を行いました。今回、中仕切り付近にアマモが生育していることが確認でき、望外の収穫でした。

帰港後は鯿巾着漁協のセリ場において、採取した生き物の同定を行いました。参加者たちは講師からのアドバイスを受けながら、図鑑を見て種類を特定していきました。今回の調査結果は「大阪湾生き物一斉調査事務局 (国土交通省)」に報告し、大阪湾の水環境を把握する基礎資料として使われる予定です。

会場に共和海建グループの石田氏が阪南2区付近の海域で採取したアナゴ・タコ・カニ・メバル等を入れた水槽を設置すると、子供たちが歓声を上げて生き物に触れていました。



▲昼食にはカキが提供された



▲交通船を使って干潟へ移動



▲干潟造成の経緯や注意事項について説明



▲講師の指導を受けながら、干潟の生物を採取



▲干潟でアマモの生育を確認



▲マテガイ



▲オオノガイ



▲干潟の干出部分ではマテガイの採取が人気



▲採取した生き物の同定作業



▲海域で採取した生き物を入れた水槽